



# 活躍の現場から



## ● お〜い… 一人にしないでくれ！ ～「多文化京都ネットワーク」の構築について～ —— 京都府内国際交流員

京都府内には1府6市町に10人の国際交流員（CIR）がいます。これまでは、それぞれが主に各自自治体で活動していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行を経て、CIR 同士の連携やネットワークの構築を図りました。本稿ではその取り組みについて紹介したいと思います。

### ネットワーク前夜 コロナ禍のCIRは？

新型コロナウイルス感染症の影響により、国際交流が困難になりました。CIRの活動も、もちろん影響を受けました。そうした状況のなかにあっても、私たちCIRはさまざまな工夫をして活動を行ってきました。

**（亀岡市文化国際課 サミュエル・ジード）**

私が亀岡市でCIRに就任した当初はいくつかの国際交流事業、特に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連の交流事業に深く関わる予定でした。

ところが、就任した6カ月後に新型コロナウイルス感染症の影響ですべての交流事業が中止・延期となり、在住外国人の生活支援や多文化共生推進が主な業務になりました。そのような状況においても、自分の日本語能力が向上するよう必死に努力し、市民との交流や生活サポートに励んだことにより、かけがえのない充実した5年間にすることができました。

**（京丹後市観光公社 トレババー・ケネディー）**

京都市から特急列車で2時間ほどの京丹後市での活動を紹介します。

京丹後市での私の仕事は、京丹後市を訪れる外国人観光客の数を増やすことでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により入国が制限されているなかでそれを行うのはかなり困難でした。そこで、これを機会に、検索エンジン最適化などのウェブマーケティング手法やSNSの効果的な利用方法について学び、学んだことを活用し

て、京丹後市の認知度を向上させることにしました。

京丹後市でも、新型コロナウイルス感染症の影響でCIRの業務は制限され、さまざまな対策が必要でした。

新型コロナウイルス感染症の流行は落ち着いてきていますが、もしまたそのような状況になったとしても、京都府内のCIRが連携し、情報交換などができるような関係性が構築できれば、互いに励ましあいながら安心して活動に取り組めるのではないかと感じました。

### ネットワークの誕生へ

**（京都府国際センター ケント・ラバストル  
／京都府国際課 アダム・フランクリン）**

京都府国際センターに来て1年が経過した頃、府内の他のCIRと交流が少ないことに気づきました。そのような時、近畿ブロックCIR研修会で兵庫県のCIRネットワークの存在を知り、京都府でもCIR同士が協力できる場＝「多文化京都ネットワーク」を作ろうと考えました。そこでまず、ネットワーク作りについて理解を得るため、各任用団体を訪問しました。CIRや担当者と直接話せたことは、皆のニーズや職場の雰囲気把握する素晴らしい機会となりました。

実際に「多文化京都ネットワーク」を構築するために、複数のツールを用意しました。その一つが国際交流員ブログです。このブログは、CIRの多文化共生の取り組みを府民に紹介するだけでなく、各任用団体とも最新情報を共有できるようなツールとなりました。ブログ以外にも、ライングループなどを通じてCIR同士のコミュニケーションの円滑化を図りました。定期的にネットワーク会議も開催し、共同イベントの相談や情報交換などを行っています。

「多文化京都ネットワーク」を始めて1年が経ち、近畿ブロック研修会で兵庫県のCIRに感謝の意を伝えるこ



2024年1月 CIR近畿ブロック研修会にて

ともできました。

## イースターコラボしませんか？

(京田辺市市民部市民参画課 シャベズ・莉愛  
／精華町企画調整課 ケイトリン・トロンブリ)

「多文化京都ネットワーク」のおかげで、イベントの開催のために他のCIRと協力することがさらに円滑にな



2023年4月 京田辺市「Easter Eggsperience: 海外のイースターを体験してみよう！」

りました。例えば、子どもたちが海外の習慣・文化を学び、体験することを目的として開催した京田辺市のイースターイベントでは、アメリカ出身の精華町のCIR、カナダ出身の亀岡市のCIR、フランス出身の京都府国際センターのCIRの協力により、アメリカ、カナダ、フランス3カ国のイースターの習慣や文化、お祝いの方法を紹介することができました。

日本ではイースターは馴染みが薄いですが、参加者がこのイベントを通して多文化の理解を深め、普段体験できないことを体験することで、異文化交流はより価値のあるものだと感じてもらえたと思います。他のCIRと協力することで、参加者にさまざまな国の言語、習慣、文化を紹介する場となり、他国の興味を刺激する意義のある取り組みにつながりました。

## 世界につなげよう！

(京丹後市市長公室政策企画課 ジェシカ・イエ  
／京丹後市教育委員会学校教育課 ジェイク・テンボ)

京丹後市では、外国人市民と高校生が交流し、多文化





2023年10月 京丹後市でのワールドカフェに向けたワークショップ

共生を促進することを目的とした「ワールドカフェ」という企画を実施しました。

まず、準備のためのワークショップで、アメリカ、オーストラリア、イギリスの3人のCIRが母国について紹介したあと、参加した生徒たちがCIRと話し合っテインタラクティブなポスターを作成し発表しました。生徒たちは、CIRとの交流によりそれぞれの国について理解を深め、貴重な経験を得ることができました。

また、当日は、地域の人々が「ワールドカフェ」を訪れました。生徒たちは、ワークショップで学んだ知識を

生かすとともに、ポスターを参考にしながらそれぞれの国を紹介しました。

京丹後市には多様な外国人が住んでいます。それを市民に知ってもらうことや外国人と日本人が外国文化について話し合う場を提供することは、「ワールドカフェ」の大きな目的でした。

生徒が多国籍のCIRと協力しこの取り組みを行うことで、多くの市民と在住外国人とのより意義深い交流ができたと思います。

## これからのチャレンジへ！

(木津川市学研企画課 **グエン=チュック・リン**  
／舞鶴市役所 **アフメドフ・アシルベク**)

「多文化京都ネットワーク」が始まってから、さまざまなコラボレーションイベントが行われ、府内の異文化交流の場が増えました。京丹後市CIRのジェシカ・イエさんがウェブサイトマネージャーに、京田辺市CIRのシャベズ・莉愛さんがソーシャルコーディネーターとなり、ブログを定期的に更新することをはじめ、よりたくさんの方々に「多文化京都ネットワーク」について知ってもらうため、InstagramやTikTok（ティックトック）など、SNS上でのさまざまな活動を拡大していく予定です。

「多文化京都ネットワーク」の誕生後、ネットワークを使って京都府内のCIRによるコラボレーションイベントなどを開催してきましたが、今後はCIRのみならず外国語指導助手（ALT）にも呼び掛け、京都府のJET参加者のネットワークをさらに強化していきたいと考えています。

また、他の在住外国人ともつながれるようなイベントを実施するなど、京都府のCIR全員がそれぞれの地域の活性化に貢献することを目指していきたいと考えています。



2024年3月 CIR 中間研修にて